

エアロフィックスのクリーニング方法について

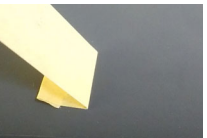
- ・クリーニングをおこなう際は**必ず”エアロフィックスを使用される際の注意事項”**を御理解・厳守頂いた上での作業を御願い致します。
- ・”**エアロフィックスを使用される際の注意事項**”が優先されます。

・正圧の印加は**0.05 MPa**が上限です。**破損の原因**となります。エアロフィックス内部の圧力が**0.05 MPa**以下となるよう御使用ください。また、**液体を含むと抵抗が大きくなり、圧力が高くなる可能性があるため、正圧を印可される場合は二次側リリーフ機能付きレギュレータによる減圧かりリーフバルブ(0.05MPa 作動)の設置を推奨**します。

- ・**硬化するもの**(接着剤など)や**高粘度の液体**(研削油・グリスなど)が付着した場合は除去が困難な場合があります。
- ・実際の環境に適した方法の選択を推奨致します。
- ・**下記の方法で除去できない場合は御相談下さい。有償によるクリーニングもおこなっております。**

ドライ環境

- ① 空気中の塵の体積や粉末がのってしまった場合は、まず下記の方法をお試しください。
 - エアブローでの吹き飛ばし
 - 掃除機での吸い取り
 - クリーンウェス等での払拭(**ドライか純水、エタノール、IPA**を御使用下さい。これ以外は推奨致しません。液体を使用される場合に正圧(0.05MPa 以下)を印可して頂くとより除去しやすくなる場合があります。)
- ② ①により除去できない場合に下記の方法をお試しください。
 - 粘着ローラ(弱粘着)
 - マスキングテープ(弱粘着)(いずれも粘着剤により**のり残りの可能性**があります。影響のない部分でお試し頂いた上で御使用下さい。)
- ③ ①、②の方法で除去できず表面から凸状に残るゴミなどがある場合は下記のクリーニングをお試しください。



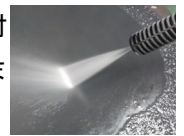
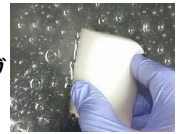
カッターナイフで凸部をそぎ落とします。刃をねかせてあて、表面を滑らせます。



(強く当てすぎると表面が削れたり、カッターの成分が付着する可能性があります。)

ウェット環境

- ① 加工後の研磨屑などは、正圧を印可してクーラントを散布しながら下記をお試しください。
 - ワイパーなどによるワイブ
 - メラミンスポンジによるスクラブ(こする強さは徐々に強くして下さい。**粉末が多量にある場合、粉末の硬度によっては表面が削れてしまう可能性**があります。)
- ② ①でとれない場合は、高圧洗浄機による洗浄をお試しください。汚れが残っている部分に対して噴射します。洗剤等の使用は推奨致しません。
- ③ ①、②の方法で除去できない場合は、セルフカット(自機研)により、**10~50 μm**(最大でも~200 μm程度)の除去加工をお試しください。加工される際は、超砥粒系(**ダイヤモンド、CBN**で**#200~600 程度**)の工具・砥石を推奨致します。
- ④ 研削油が内部に残るなどした場合は、溶剤(**純水、エタノール、IPA**)をかけながらの真空引きをお試し下さい。真空の経路で**溶剤+油等をトラップして回収**されることを推奨致します。また、0℃に近い温度で継続して真空引きをした場合にチャック内部での断熱膨張により水分等が氷結する可能性があります。



クリーニングを簡単にするために

- ・汚れ等が付着した場合はなるべく早く処置されることをお勧めします。
- ・研削液等のウェット環境の使用の場合は、使用後に下記いずれかされることを推奨致します。
 - 真空引きで油分のない水を吸い込み置換する
 - 真空引きをして液を引き切る
 - 正圧を印可しながらエアブローで液を飛ばす